

「宮内伊予柑」に対する有望な弱毒ウイルス						
〔要約〕「宮内伊予柑」に対する C T V 弱毒ウイルスの干渉効果を検定した結果、県内で採集した弱毒系である MI-1 が有望である。						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専 門	作物病害	対 象	果樹類	分類	指 導
平成 4 年度長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

強毒のカンキツトリステザウイルス（以下、C T V）に感染した「宮内伊予柑」は、枝にステムピッチング症状、果実にかいよう性虎斑症状を示し、樹勢の低下及び障害果の多発がみられ、栽培上問題となっている。

そこで1986年に無毒化した「宮内伊予柑」1年生苗に各弱毒系の樹片を接種し、その後の樹体の生育状況と果実形質を調査し、弱毒ウイルスの干渉効果と実用性を検討する。

〔成果の内容・特徴〕

①樹体の生育状況は、MI-1が無接種樹とほぼ同等であるが、その他は劣る。またM-12にステムピッチング症状がみられる。

②収量はMI-1とM-23Aが無接種樹よりやや少ない程度であるが、その他は劣る。果実形質、果皮色、糖度については無接種樹とほぼ同等である。

〔成果の活用面・留意点〕

事前に苗木の中に、C T Vが感染していると弱毒を接種しても干渉効果が現れないので、必ず無毒樹に接種する。またこのC T Vは、ミカンクロアブラムシによって伝搬されるので、防除を徹底する。

[具体的データ]

表 1 C T V 弱毒ウイルス接種樹の生育状況

弱毒系		年次別生長程度			
		1986	1990	1991	1993
無接種	幹径(mm)	13	25	36	65
	樹高(cm)	31	104	147	168
M1-1	幹径(mm)	13	24	35	60
	樹高(cm)	31	92	133	162
M-10	幹径(mm)	13	23	30	50
	樹高(cm)	32	64	99	126
M-12	幹径(mm)	13	24	38	50
	樹高(cm)	31	90	112	110
M-23A	幹径(mm)	13	22	34	51
	樹高(cm)	31	76	101	137
M-27	幹径(mm)	13	21	29	48
	樹高(cm)	31	67	104	124

表 2 C T V 弱毒ウイルス接種樹の果実形質

弱毒系	年度	横径 (mm)	縦径 (mm)	1果重 (g)	収穫果数 (個)	果皮色 (a/b値)		糖度	酸含量 (g/100ml)
						果頂部	赤道部		
無接種	1992	94	79	320	21	0.78	0.75	12.2	1.16
	1993	89	80	288	79	0.64	0.68	12.6	1.51
M1-1	1992	94	81	311	19	0.81	0.75	11.8	1.23
	1993	93	83	322	58	0.67	0.71	12.3	1.36
M-10	1992	93	79	316	14	0.74	0.69	12.6	1.32
	1993	96	85	350	36	0.64	0.69	12.2	1.41
M-12	1992	99	86	377	10	0.71	0.71	11.9	1.24
	1993	89	80	293	39	0.68	0.72	12.8	1.55
M-23A	1992	94	80	322	17	0.75	0.73	12.7	1.24
	1993	90	81	306	65	0.66	0.68	12.7	1.50
M-27	1992	94	80	315	11	0.74	0.73	12.2	1.20
	1993	92	82	312	41	0.65	0.67	12.7	1.34

[その他]

研究課題名：果樹ウイルスの無毒化並びに優良種苗育成調査

予算区分：県単

研究期間：平成4年度（平成1～7年）

研究担当者：古賀敬一、大久保直雄

発表論文等：なし

残された問題点：ELISA法による弱毒樹のウイルス検定を行う必要がある。